

学習内容報告書 フォーマット

学校名	銚田市立銚田南中学校
授業者	横田 聡 窪谷 理

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

銚田も昔は海だった

1-2. 学年

第1・2学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

理科、部活動（文化部）

1-4. 単元の概要

本単元での活動は文化部が野外活動の実施と試料採集と教材開発、次に、それら教材を活用した理科授業の二つに分けられる。次にそれらを順に示す。

(1) 部活動において

文化部が休日に野外観察会として市内の海で地層から試料採集を実施する。それら試料から授業で活用できる教材開発を実施する。

(2) 理科授業において

理科授業において上記の教材を活用し、堆積物の観察を行う。観察した結果、海と地層中の堆積物の共通点から、『銚田も昔は海だった』ことに実感を伴った理解を図る。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

(1) 単元設定の理由

地学分野において観察・実験教材が乏しかったから

(2) 単元設定のねらい

観察・実験を通して、『銚田も昔は海だった』ことに実感を伴った理解を育むこと

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・貝殻や貝化石、鉱物組成を同定する技法を知り、活用することができる。（資質や能力）
- ・銚田の海の堆積物と地層の堆積物が同様なものであることから、昔は銚田の大地も海であったことを類推することができる。（資質や能力）
- ・郷土の大地のでき方を知ろうとする。（態度）

1-7. 単元の展開（全2時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の説明を聞く。 ・観察・実験の探究学習を行う。 ・タブレットで記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の指導 双眼顕微鏡の使用方法 鉱物試料の同定方法 貝や貝化石、有孔虫の見分け方 ○ 主な評価 ・双眼実態顕微鏡で有孔虫や鉱物を観察できたか。 ○ 使用教材等
2	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の説明を聞く。 ・観察・実験の探究学習を行う。 ・タブレットで記録する。 ・タブレットの画像を利用して振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の指導 ○ 主な評価 ・双眼実態顕微鏡で有孔虫や鉱物を観察できたか。 ○ 使用教材等

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・貝殻や貝化石、鉱物組成を同定する技法を知り、活用することができる。（資質や能力）
- ・銚田の海の堆積物と地層の堆積物が同様なものであることから、昔は銚田の大地も海であったことを類推することができる。（資質や能力）
- ・郷土の大地のでき方を知ろうとする。（態度）

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 プレゼンテーションにより、説明を聞くことで本時学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>海の地層の堆積物と共通点から地層がどのような環境で堆積したか類推しよう。</p> </div> <p>2 学習方法を知る。</p> <p>3 探究学習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地層の対比 ② 土砂堆積実験 ③ 海と地層の鉱物組成観察 ④ リップルの実験 ⑤ 有孔虫の観察 ⑥ 現生貝殻と地層の貝化石観察 <p>3 学習の振り返りをする。</p> <p>4 次時の学習内容を知る。</p> <p>○ 次時はこの続きをし、学習のまとめを行う。</p>	<p>・部活動の校外学習での画像等を活用したプレゼンテーションを行うことで、校外学習をしていない生徒でもバーチャル体験をしているようにイメージさせ、興味関心を高める。</p> <p>・学習方法が見返せるように、生徒 1 人 1 台のタブレットにマニュアルを送付しておく。</p> <p>・グループによる協働学習を行うように指導する。</p> <p>評：貝殻や貝化石、鉱物組成を同定する技法を知り、活用することができたか。 (観察・タブレットによる記録)</p> <p>・次時学習内容を周知しておく。自分の撮影した画像を利用してプレゼンテーションを作成することから記録の必要性を確認する。</p>

3. 今回の活動の自己評価

- ・探究学習が困難な単元で探究学習を実施することができた。
- ・地層の古環境といった専門的な内容でも、地質標本館の野外観察会で実施した文献があったので質の高い授業を展開することができた。
- ・鉱物粒の粒形をそろえるためにふるいを活用した。使用したことがない生徒が多く、興味・関心をもって取り組んだ。
- ・現生の貝と化石の貝を結び付けるだけでなく、現生と化石の有孔虫を結び付けた。古生代の示準化石として理科の授業ではフズリナを学習している。しかし、教科書の画像による知識のみである。本教育実践で実際の有孔虫を観察したことで生徒の科学的な知識や思考を膨らませることができた。

4. 今後の課題

- ・たくさんの場所を用意するので IT での実施が望ましい。
- ・次年度も継続実施をしたいと考えるが、予算の面に課題がある。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特にありません。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。